

7 京田辺市本町通り調査

京都府立大学文学部地理学研究室

1. 概要

2020 年度は京田辺市史編さん事業の一環として、京田辺市田辺の「本町通り」に関する踏査及び聞き取り調査を実施した。地理学教室スタッフのおこなった調査は以下の通り。

2020 年 9 月 10 日 TH 氏への聞き取り調査

(オンラインにて実施。参加者：上杉和央・荒井元希・市史編さん室)

2020 年 9 月 24 日 TH 氏への聞き取り調査

(オンラインにて実施 参加者：上杉和央・荒井元希・市史編さん室)

2020 年 11 月 18 日 NO 氏・KK 氏への聞き取り調査

(市立中央公民館にて実施 参加者：上杉和央・永久陽菜・市史編さん室)

2020 年 12 月 13 日 本町通踏査 (参加者：上杉和央・永久陽菜・宰川 玲)

2. 成果

本町通りとは府道 22 号八幡木津線のうち京田辺市田辺を通過する一部分を指す。おおよそ棚倉孫神社(薪との境界)付近から田辺小学校あたりが中心となる。この地区のほぼ中心には十字路があり、そこで北と南に分かれる。今回、「ひと昔前」の本町通りについて住民(元住民)から聞き取り調査をおこない、おおよそ戦後～1950 年代頃の店舗やその思い出を語っていた。一方で、踏査によって現在の様子を確認し、店舗の推移を確認した。

本町通りの近くには郡役所・法務局・教育局・土木事務所・保健所・町役場・税務署などが集まっており、綴喜郡の中心地としてにぎわいを見せた。そうした地域的特徴を反映して展開した業種の 1 つが料理屋(仕出し屋)である。本町通りには三軒の料理屋があり、近隣地区の集まりや冠婚葬祭の際の仕出しに加え、各施設が仕出しを注文する機会も多かったという。なお、今回のインフォーマントはすべて本町通りで生まれ育った方だが、そのうちの一人は元仕出し屋の店主であった。

1958 年に作成された本町通り地区の商店地図と現在の状況を比較すると、店舗の大幅な減少が確認された。これは、府道 22 号の交通量が増えたことで商店街＝滞在地という環境が悪化したこと、車利用の場合は通過地へと変化したこと、周辺地域への大型店舗の出店の影響といったことが要因となったようである。一方で、料理屋(仕出し屋)の中には営業を続けている店舗もあるなど、地域性を示す痕跡を見出すこともできた。

こうした地域変化を記録としてとどめることは重要である。京田辺市史の記載に適切に反映できるようにしたい。(上杉和央)